

第 4 章

各学年段階における キャリア教育



第4章

各学年段階におけるキャリア教育

低学年

小学校低学年におけるキャリア発達課題を達成していくためには、「小学校生活に適應する」「身の回りの事象への関心を高める」「自分の好きなことを見付けてのびのびと活動する」という視点が大切である。ここでは、「四つの能力」ごとに、実践するに当たってのポイントをまとめてみる。

【人間関係形成・社会形成能力】

児童は、家庭 → 保育園・こども園・幼稚園 → 小学校 → ……と、どんどん「社会」を広げていく。その中で、家族、友達、先生、上級生・下級生、地域の人々と、関わる人も徐々に増えていく。

低学年では、人との関わりの基盤となるコミュニケーション力（あいさつや返事など）とともに、友達と仲よく助け合っていく態度の育成も求められる。

また、幼稚園児等との交流や地域の人々との触れ合いの場、縦割り班活動での異学年交流の場などを通して、身近な人々に関わることの楽しさを十分味わわせるとともに、身近な人々の生活や働く人々に関心をもち、積極的に関わっていこうとする態度も育みたい。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- あいさつや返事をする。
- 友達の気持ちを考える。
- 自分の生活を支えている身の回りの人に感謝する。
- 同じ考えの友達と話し合う。(1・2年体育「表現リズム遊び」)
- 友達のよいアイデアに気付く。(2年音楽「せいかつの中にある音を楽しもう」)
- 身近な人々に関心をもち、積極的に関わる。(2年学校行事「なかよし遠足」)
- 「ありがとう」や「ごめんなさい」が言える。
- みんな仲よく学習したり遊んだりする。

【自己理解・自己管理能力】

何でもやってみたい時期、好奇心旺盛な時期に、様々な体験活動の中で、できるようになったことを増やし、自信をもたせて活動する楽しさを味わわせるとともに、自分の気持ちや意見を伝えることの大切さを教えたい。

その一方で、自分を中心とした生活(小さな社会)から、「したくてもしてはいけないこと」「やりたくなくてもやらなければならないこと」がある社会へと視野を広げていくことも必要になる。そこで、時間やきまりを守るなどの基本的な生活習慣を身に付けることや、社会のきまりを理解することなどを指導することは、この時期に最も大切である。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 決められた時間や約束を守る。
- 自分の好きなもの、大切なものをもつ。
- 係活動や家での仕事を通して、自分の役割の大切さが分かる。
- 自分ができることを知る。(1年道徳「じぶんでできるよ」)
- してよいことと悪いことがあることが分かる。
- 自分の気持ちや意見を伝える。

【課題対応能力】

低学年の児童は、初めて出会う学習活動や生活体験への期待を膨らませる児童もいれば、不安をもつ児童もいる。新しい社会で起こり得る様々な課題については、発達段階を踏まえると「先生や友達が何とかしてくれる」ことの方が多いかもしれないが、徐々に「自分にもできることはある」と、自力解決への意欲・意識をもたせることが大切である。

そのため、活動に当たっては、すべて教師がおぜん立てするのではなく、計画や準備の段階から児童に関わらせ、失敗や反省を次の活動に生かす経験も必要になる。また、みんなで話し合っ解決することの楽しさを味わわせることで、「折り合いをつける」話し合いへとつなげていくこともできる。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 作業の準備や片付けをする。
- めあてや計画を立てて活動する。
- 分からないことがあったら自分から質問する。
- 当番活動を通して、働くことへの意識をもつ。(1・2年学級活動「きれいなきょうしつ」)
- みんなで楽しい学校生活を作るために、話し合いの仕方を知る。(1・2年学級活動「学級交流会をしよう」)

【キャリアプランニング能力】

学級で係活動に取り組んだり、家庭で仕事を分担したりすることを通して、自分が役割を果たすことの価値を知り、自己有用感を味わうことができる。それは、自分をかけがえのないものとして大切にしていこうとする気持ちを育み、自分自身の成長に気付き、自信を深めていくことにもつながっていく。

そのためには、学んだことを生かす活動や、自分や友達のよさや成長に気付く活動を積極的・継続的に設定する必要がある。特に、「キャリア・パスポート」は、この時期に将来への夢や希望をしっかりと書かせるなど効果的に活用することで、数年後に振り返ったとき、自分自身の変容や成長をより一層実感することが期待できる。



《活動のねらい(身に付けさせたい力)》

- 係や当番の仕事に取り組み、その大切さが分かる。
- 身近で働く人の様子が分かり、興味・関心をもつ。
- 学んだことを生かすことができる。(1年国語「じゅんじょにきをつけてよう」)
- 自分の成長に気付くことができる。(2年生活「自分の成長を実感しよう」)

《国語科》 学びに向かう力や学んだことを生かす力を高める

単元名 「じゅんじょにきをつけてよもう」

ねらい

- ◎ 事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えることができる。
- 文の中における主語と述語との関係に気付くことができる。
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
- 進んで、事柄の順序を考えながら、内容の大体をとらえ、学習の見通しをもって、考えたことを文章にまとめようとしている。

本単元とキャリア教育

この教材は1年生で初めて扱う説明的な文章である。くちばしの問題という形式で児童に親しみやすく、問い、答え、説明という構成の文章で3つの鳥のくちばしについての説明的な文章を読むことを通して、児童は説明的な文章の構造や主語と述語の関係を学ぶことができる。この教材では、同じ構成の文章を読み取っていくため、前時の学習を生かして次の学習を行うことができる。また、説明的な文章を読むことは、今後児童が図鑑や伝記など様々な本を読む上での基礎となり、読むことのよさや面白さに気付くきっかけともなる。さらに、児童がこれから出会うであろう様々な製品の説明書や新聞、参考文献などを読む上でも説明的文章の重要度は高く、文章を理解できることは自分を高めたり、広げたりするための大きな力となり、生涯学び続ける力の基盤ともなるだろう。

今回、活動の最後には、くちばしの問題を自分でつくろうという活動を設定した。この活動から児童は図鑑や本を自分で読んでみたい、調べてみたいという意欲が生まれると考えられる。自分の伝えたいことを順序立てて説明するということは、スピーチや話し合い活動においても大事な力である。また、学んだことを自分で生かして活用するということで児童の課題対応能力も育っていくと考えられる。

入学して少し落ち着いてきたこの時期、学習への見通しをもたせ、学習が「生きている・つながっている」ということを実感させることで、今後の学校での様々な学びに向かう姿勢が確立していく。一人一人の学びの意欲や学び方を学べるようにするためにも、学習計画や授業の流れをしっかりと児童と共有しながら進めていきたい。

全体構想

- 1 ① 学習計画を立てる。
② きつつきの文章を読み取る。
③ おうむの文章を読み取る。
④ はちどりの文章を読み取る。
- 2 ⑤ 本で調べてクイズにするものを選ぶ。
⑥ クイズをつくる。(本時)
⑦ 班でクイズ大会をする。



学級活動「図書室へ行こう」
・図書室の使い方や役割を知る。



1年生国語科の説明的な文章の学習
・説明文に書いてある内容を読み取る。
・図鑑をつくる。

本時のねらい

- 本や図鑑の中の重要な語を考えて選び出すことができる。
- 本や図鑑を読み，分かったことを生かして進んでクイズをつくろうとしている。

実践のポイント

学びのつながりを感じられるような学習計画を立てる。

前時とのつながりを感じられるような学習計画や振り返りをし，その記録を蓄積する。

児童が自ら学びたいと思えるような活動を入れる。

- ・ 児童の興味・関心や実態に合わせて，学びを生かす時間をどう設定するかを考える。
- ・ 児童の実態に合った本の選書が重要である。図書館司書と連携し，図書室だけでなく公共図書館の団体貸し出しも活用すると，児童の実態に合った本を選ぶことができる。

展開（6/7）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項（○） キャリア教育の視点から見た重要なこと（◎） 評価（☆）
導入	1 本時のめあてを知る。 くちばしの クイズを つくろう。	◎ 児童に今までの学習を想起させ，学びのつながりを実感できるようにする。
展開	2 クイズのつくり方を確認する。 ①鳥のくちばしのかたち ②問い ③答え ④くちばしの使い方 ⑤えさ 3 自分で選んだ鳥のクイズをつくる。 4 隣の友達にできた問題を出す。	○ 書き方の手順を確認する。 ○ 活動に困っている児童には，穴埋め形式のワークシートを渡す。 ☆ 本や図鑑を読み，分かったことを生かして進んでクイズをつくろうとしている。 ○ 友達とやり取りをすることで相手に伝わる文か確認できるようにする。
まとめ	5 振り返りをする。	◎ 学びの達成感や次回の活動への意欲へとつながるような発言に注目できるようにする。

《道徳科》 基本的な生活習慣を身に付けさせる ～合言葉は「やればできる」～

主題名 じぶんでできるよ A「節度、節制」

ねらい

自分ができることは、自分でしようとする心情を育てる。

本主題とキャリア教育

子供は大きくなるについて、自分でできることがだんだんと増えていく。小学校入学をきっかけに、これまでやってもらっていたことを自分でやろうという気持ちをもたせることが自立への第一歩になる。身の回りの整理整頓などの基本的な生活習慣を見直すとともに、周囲に対する気配りや思いやりをもつことの大切さにも気付かせることが、将来、望ましい生活習慣を積極的に築き、自ら節度を守りながら生きていくことにつながっていく。

キャリア教育における基礎的・汎用的能力の「自己理解・自己管理能力」には、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、今後の可能性を含めた肯定的な自己理解に基づき、主体的に行動しながらも、ときには自分の思考や感情を律して行動することも含まれている。自尊感情や自己肯定感の低下が指摘される中で「やればできる」と考えて行動できる力とともに、変化の激しい社会で多様な他者と協働することも求められている。

また、身近で働く人々に興味・関心をもたせることが、「キャリアプランニング能力」の基盤にもなる。“withコロナ”の時代が続くことが予想されることを踏まえ、医療従事者に触れることも、感謝の気持ちを育むことにつながっていくと思われる。

全体構想

〈学級活動〉 ○係の仕事をやってみよう ○「大きくなったよ」発表会

〈道徳科〉(※関連教材)

学研教育みらい「ぼくのこと きみのこと」「みらいにむかって」

学校図書「おてつだいじまん」「がんばれポポ」

教育出版「きもちのよいせいかつ」「おふろばそうじ」

廣済堂あかつき「きょうもげんき」「にゃんたくんとみけちゃん」

光文書院「ちゃんとのおつじん」「一にち十ぶん」

東京書籍「きをつけて」「ぼくのしごと」

日本文教出版「ゆうたのへんしん」「あとかたづけ」

光村図書「きもちのよいせいかつ」「おふろそうじ」

〈生活科〉 ○自分の一日を見つめよう ○自分でできることをしよう

本時のねらい

- 自分ができることは自分でしようとする気持ちをもつことができる。
- いろいろな立場によって考え方が変わること気付くことができる。

実践のポイント

多様な考え方があることを通して、自らの成長を実感させる。

何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気をつくるとともに、教師が受容的な姿勢をもつ。自分と異なった考え方に接する中で学習が深まっていくことを経験させる。

様々な立場や役割を踏まえて、「働くこと」の意義を深く考える。

お母さんの立場で考えさせたり、看護師の姿を連想させたりしながら、「働くこと」(生きること)への興味・関心をもたせ、「キャリアプランニング能力」の素地を育てる。

学習指導過程

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 未来を想像する。	○ 本時は「未来」(30年後)について考えることを知らせ、どのような世界になっているかをイメージさせ、興味をもたせる。
展開	2 教材『子育てロボット』を読み、どちらのロボットを選ぶかを考える。 (1)「あなた」なら？ (2)「お母さん」なら？ (3)「看護ロボット」なら？ ※ 時間的余裕がなければ教師が簡単にふれる。	○ (1)～(3)の最初に、どちらを選ぶかを直感で決めさせる。 ○ 教材2～4行目では、今は男女関係なく、家族みんなで子育てする時代になっていることを補足する。 ○ A社のロボットを支持する意見が多く出ると思われるので、まずは共感する。 ☆ 選んだ理由も発表させ、様々な視点(子供の身体的状況や家庭環境など)から考えた意見を評価する。 ○ 児童がイメージしやすいように、「あなたを預けるとしたらお母さんはどちらを選ぶと思う」と問いかけ、子供を小学1年生に限定することで、自分の問題として考えさせる。 ◎ 自分でできることを考えさせることから、「自己理解・自己管理能力」の素地を育成する。 ○ 「子育て」から「看護」に視点を変えることで、考え方も大きく変わってくることに気付かせる。 ◎ 病院などで働く大人の様子を思い浮かべさせることで、身近で働く人々にも興味・関心をもたせる。その際、医療従事者への感謝の気持ちなどにふれてもよい。
終末	3 選んだ理由を振り返る。	☆ 再度「お母さん」の立場で意思表示をさせ、授業の途中で考え方が変わった児童には、それが成長(学び)であることを伝え、称賛する。 ○ 立場や状況によっていろいろな考え方があることに気付かせる。 ◎ 働く(生きる)ためには、人とのコミュニケーションや笑顔が大切であることをおさえる。

《生活科》 自己肯定感を高め、進級への意欲や希望へとつなげる

単元名 「自分の成長を実感しよう」

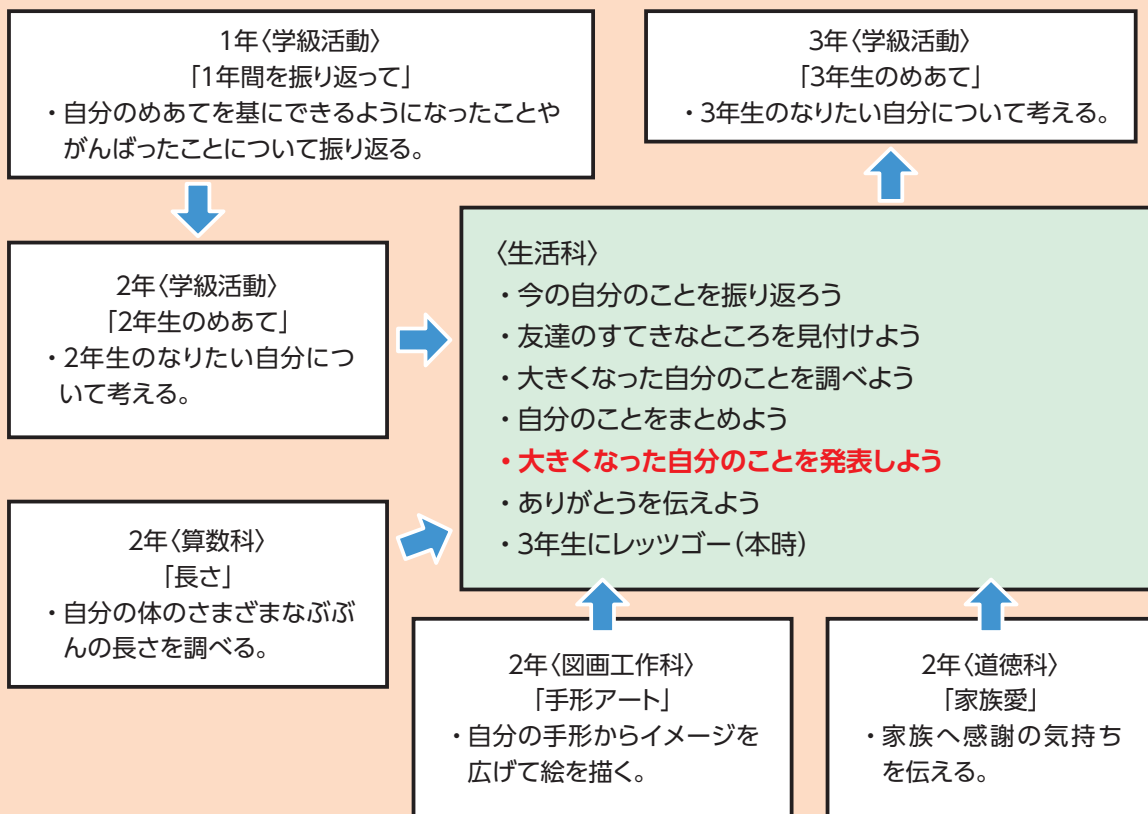
ねらい

自分が成長したことや、自分の成長には多くの人々の支えがあったことに気付くとともに、それらの人々に感謝の気持ちをもち、新学年への意欲や希望をもつ。

本単元とキャリア教育

第2学年の生活科で扱われる単元であり、「今までを振り返り、未来に向けて自分の目標を立てる」ことは、キャリア教育そのものである。本単元では、自分の成長を振り返り実感するかは、児童によって大きく異なる。よく覚えていることから振り返る児童もいれば、現在の自分から振り返る児童もいる。大切なのは自分の成長を実感できることであって、一律に過去から自分の成長をたどることではない。これはキャリア教育で身に付けさせたい基礎的・汎用的能力の「自己理解・自己管理能力」や「キャリアプランニング能力」と関係する。それとともに、家族、幼稚園や保育園の先生、1年生の時の担任の先生、友達など多くの人の支えがあって今の自分があることに気付くことで、それらの人々への感謝の気持ちをもたせる。また、自分の成長への実感とともに、インタビューした人からの言葉や友達からのメッセージによって、自分のよさを見付けられるようにする。これらの活動によって自己肯定感を高めることは、児童がこれからも頑張っていきたいという、進級に向けての意欲や希望へとつながる。

全体構想



本時のねらい

- 幼少期や1年生の頃の自分と今の自分を比べることで自分の成長に気付くことができる。
- 進級に向けての意欲や希望をもとうとしている。

実践のポイント

保護者と連携する。

事前に、保護者と単元のねらいを共通理解することで、保護者が児童に共感的に関わり、児童の自己肯定感を高めることにつながる。また、学校公開などを活用して、本単元の成果を共有する機会を設定すると、保護者は児童の成長に改めて気付いたり、教育活動への理解を深めたりすることもできる。児童の家庭環境にも十分配慮しながら進めたい。

「キャリア・パスポート」を活用する。

「キャリア・パスポート」は児童の成長の縮図である。1年生のページを振り返ることで、児童は小さい頃と今だけでなく去年と今でもこんなに成長したということに気付き、3年生への意欲や希望が高まるはずである。また、この学習の成果物を「キャリア・パスポート」にファイリングすることで、更にその先にも学びがつながっていく。

展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価
		配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 本時の活動のめあてを確認する。	
	3年生になったときの自分の姿を伝え合おう。	
展開	2 3年生になった自分を発表する。	◎ 児童一人一人が目標としている3年生の姿をみんなで認め合えるようにする。
	3 昔と比べて成長したこと、変わらないことについて書く。	○ 変わらず好きなこと、大切にしているものなどがあればそれも大事であることをおさえる。
	4 友達の発表を聞いて、気付いたことを伝え合う。	◎ 今の自分や昔の自分を見つめ、3年生ではどのような姿になりたいか、そのためにどのようなことを頑張っていきたいか考えさせる。
	5 2年生の残りの期間、頑張りたいことをワークシートに書く。	○ 自分の目標を意識付けたり、友達も同じように3年生に向けて頑張ろうとしていることに気付かせたりする。
まとめ	6 本時の学習を振り返る。	☆ これからの成長に願いをもって、意欲的に学習や生活に取り組もうとしている。

学級活動（1） 自分たちで問題を解決していくことの実感をさせる

議題名 「学級交流会をしよう」

ねらい

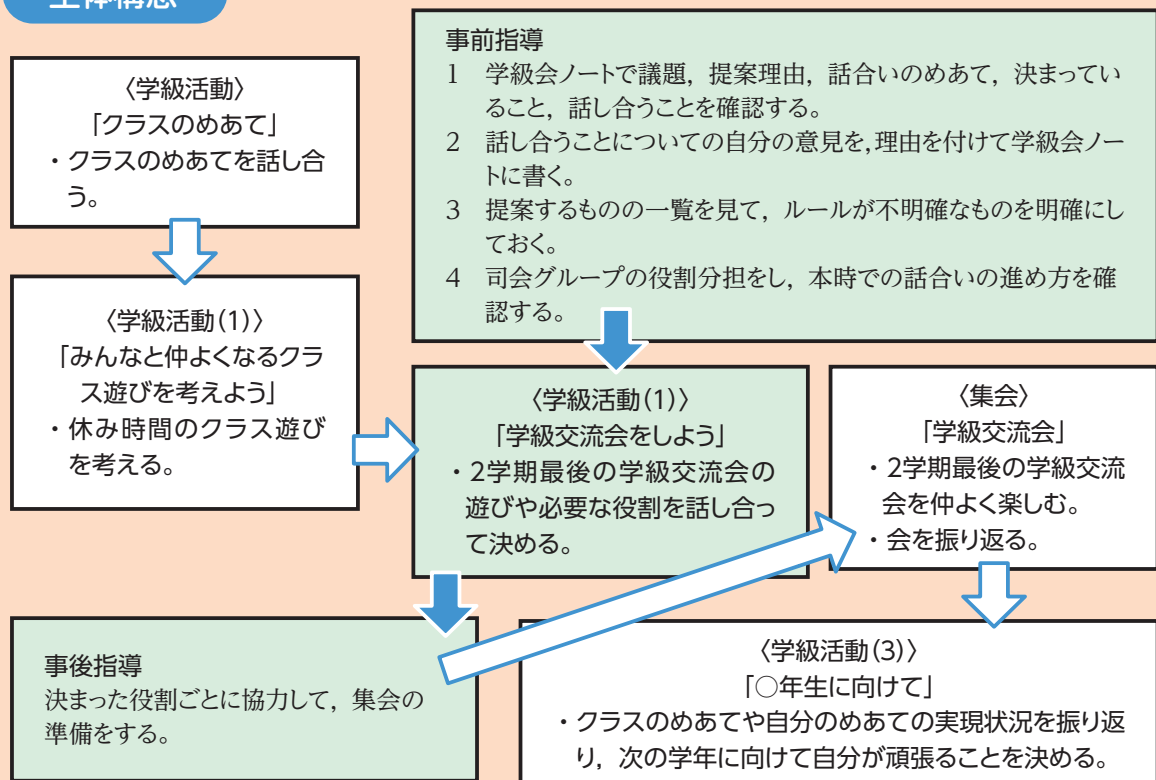
話し合い活動によって集団として合意形成をすることを通して、みんなで楽しい学校生活をつくることの大切さを理解する。

本議題とキャリア教育

学級会とは、自分たちの学級や学校生活を自分たちでつくるために話し合い、問題を解決していく活動である。学級活動（1）の授業を通して、児童は生活上の諸問題を他者と協働して解決する力を身に付けたり、そのよさに気付いたりすることができるようになる。これらはキャリア教育で育てたい資質・能力の「課題解決能力」に大に関係する。また学級会における話し合い活動によって、多様な意見を生かして合意形成を図ることは、学校生活だけにとどまらず社会で生きていくためにとても大切な力である。

低学年においては、課題を自分たちで見付けたり、めあてに沿って話し合い、合意形成をしりする経験は少ない。そのために学級会における話し合い活動の基礎から学び、その経験を積み重ねていくことが大切である。児童が自分たちでできるようになるまでの初期段階においては、課題発見や話し合いの進捗を教師が助言したり、称賛したりすることで児童が安心して活動に取り組めたり、話し合い活動のよさを実感したりすることにつながる。このような経験を積み重ねていくことが「活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとすること」につながり、クラブ活動、委員会活動などの児童の自治的活動へも発展していく。

全体構想



本時のねらい

- 話し合い活動によって集団として合意形成をすることを通して、みんなで楽しい学校生活をつくることの大切さを理解している。

実践のポイント

学級会ノートを活用する。

自分の意見をもって学級会に臨めるように、提案理由に沿った意見であるか事前に指導しておく。

司会グループに事前指導する。

安心して進行できるように司会台本を用意し、司会グループの児童と打合せをする。

教師が助言や称賛をする。

低学年段階では、司会進行や合意形成が難しい場面が多い。教師が助言や称賛することによって、児童が自信をもって司会をしたり、話し合い活動の価値に気付いたりすることにつながる。

展開

学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
1 はじめの言葉。 2 司会グループの紹介をする。 3 議題、提案理由、話し合いのめあての確認をする。 【議題】「学級交流会をしよう。」 【提案理由】「みんなで仲よく協力することでもっと仲よくなり たいから。」 【話し合いのめあて】「友達の意見 の理由を聞いて、仲よく協力で きる遊びを決めよう。」 4 決まっていることの確認 【決まっていること】 「時間：20分 場所：体育館 遊び：1つ 条件：力を合わせ ないとできないこと」 5 話し合うこと①②について話し合う。 ①「どんな遊びをしたらよいか。」 ②「必要な役割を決めよう。」 6 決まったことの確認をする。 7 話し合いの振り返りをする。 8 教師の話を聞く。 9 終わりの言葉を述べる。	○ 司会グループと、事前に進め方を打合せておく。 ○ 話し合い活動の仕方・進め方を学び、学級活動の価値を実感することをねらいとし、実態に応じて教師が学習活動（左記2,3）に関与する。 ○ 事前の活動で学級会ノートに自分の意見と理由を記入するように指導する。 ○ 様々な場面を想定した言葉を司会台本に載せておき、必要に応じて教師がどの言葉を使うとよいか助言する。 ◎ 児童が相手の考えを受け止めながら合意形成できるようにする。 ☆ 学級の一員として、よりよい学級づくりのために自分の考えを発表している。（発言） ◎ 提案理由に沿った意見や合意形成に貢献した意見、司会グループを褒めることで、学級会の成果や価値を実感できるようにする。

第4章

各学年段階におけるキャリア教育（低学年）

《音楽科》 学びと学び、学びと自分たちの生活をつなげる

題材名 「せいかつの中にある音を楽しもう」

ねらい

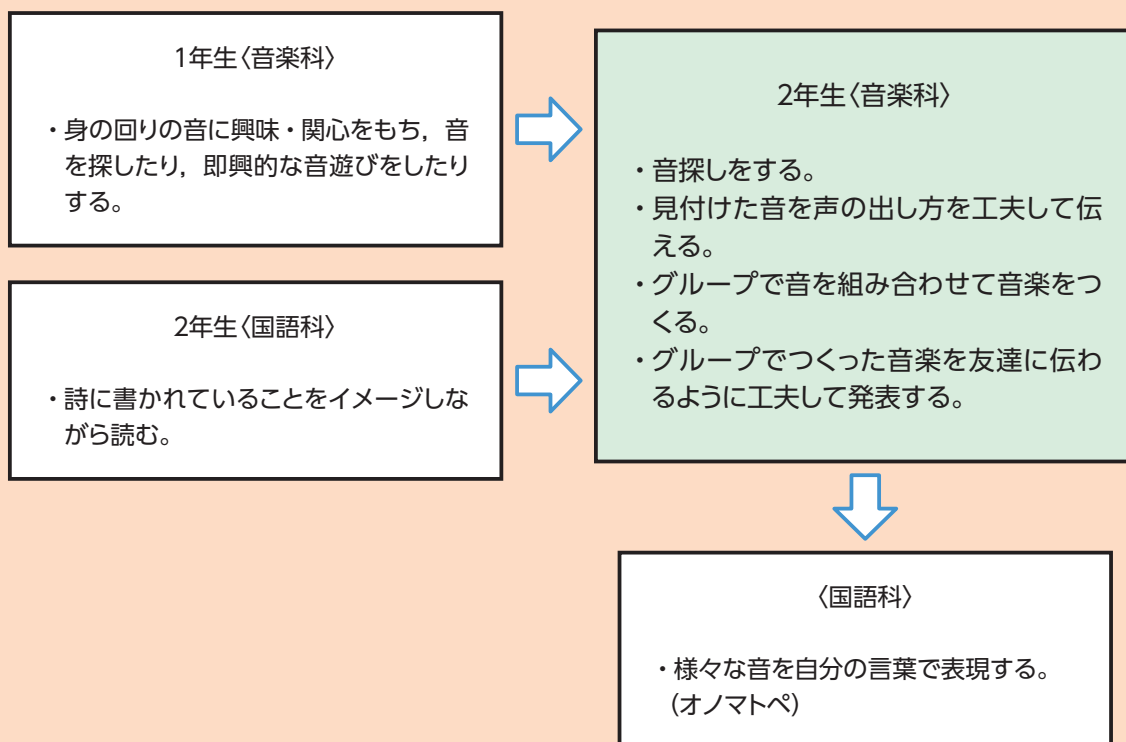
身の回りにある多様な音の特徴などについて、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、音を声で表現したり、友達と音楽をつくったりする活動を通して、音楽づくりの発想を得ることができるようにし、生活の中の音に興味・関心をもつ。

本題材とキャリア教育

本題材は、生活の中で聞こえる音に着目させることによって、音楽と生活とのつながりに気付かせることができる。また、友達と音楽をつくっていく過程で児童同士のつながりを感じられるようにすることもできる。これらは、「キャリアプランニング能力」や「人間関係形成・社会形成能力」を育むことにもつながる。

また、この題材は1年生の音楽科「みのまわりのおとにみみをすまそう」や国語科「雨のうた」で学習するオノマトペとも関連があり、音楽科の縦のつながり、国語科との教科横断的な横のつながりといった学びと学びのつながりにも気付かせることができる。本題材では、私たちの生活と音楽をつなげることによって、音に対する興味・関心を広げることや、児童の自由な発想を生かして表現することの楽しさを味わうことを大切にしたい。そして、音さがしや音づくりを通して、学びと自分たちの生活とのつながりに気付くことで学ぶことの意義、面白さを実感させ、学びへの意欲や探求心を高めていきたい。

全体構想



本時のねらい

- 身の回りにある多様な音に興味・関心を広げ、これからの学習への意欲をもとうとしている。

実践のポイント

音ノートで日常的に音集めをする。

夏休みは、海や山遊び、花火大会など夏特有の体験ができるので、音集めに最適である。夏休み前に導入を行い、体験的な活動で多くの音に出会う機会に、より多くの音を意識するよう課題を与えておくこと効果的である。また、生活科の季節の物を探す活動でも音探しを取り入れ、タブレット端末に音声や動画で記録したり、音ノートという形式で児童が見付けた時に自由にメモしたり、それらを皆で共有したりできる環境をつくっておくことよい。

例示したり、友達のよさに着目させたりする。

反復の仕方や声の重ね方、音の高さや長さを変えるなど、まずは全体で例示してどのようにつくっていくとよいかを確認する。友達のよいアイデアを共有したり、褒めたりする場面を設けることで、児童の表現力や音づくりへの意欲を高めたい。

展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 おととおタイム 聞こえる音を自分の言葉で表現する。 例：雨の音	○ おととおタイムを通して日常的に音に親しむ経験を積み重ねる。音ノートの指導を事前にしておく。 ◎ 国語科や生活科と関連付け、同じ雨でも様々な聞こえ方がすること、身の回りには様々な音があることに着目させる。
	2 本時のめあてを確認する。 みのまわりの音を こえて ひょうげんしよう。	
展開	3 校庭で音探しをする。 4 見付けた音を発表する。 車、風の音、生き物の鳴き声等	○ 生活班で音探しをし、見付けた音を音ノートに記入させる。 ○ 音を紹介し合い、反復の仕方、声の重ね方、音の高さや長さなどの視点を与え、よさや面白さを共有する。 ○ 様々な音や多様な表現方法があることに気付かせ、もっと探したいという意欲につなげる。 ☆ 身の回りの様々な音の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付いている。
	5 題材の目標や学習計画を確認する。 【学しゅうけいかく】 ①音をさがす ②音楽づくりをする ③はっぴょうする	◎ 本題材のゴール（発表会）を示し、そのために必要なことを児童と確認し、学習計画を立てることで学習意欲や見通しをもたせる。
まとめ	6 本時を振り返る。 ・身の回りの様々な音への 気付き、関心、表現 することの楽しさ、これ からの学習への意欲等	○ ねらいに即した振り返りをしている児童の感想を全体で共有することで、本時のねらいをより一層意識させる。

第4章

各学年段階におけるキャリア教育（低学年）

《体育科》 友達との関わりを通して、多角的なものの見方を育む

単元名 「表現リズム遊び」 (表現遊び)

ねらい

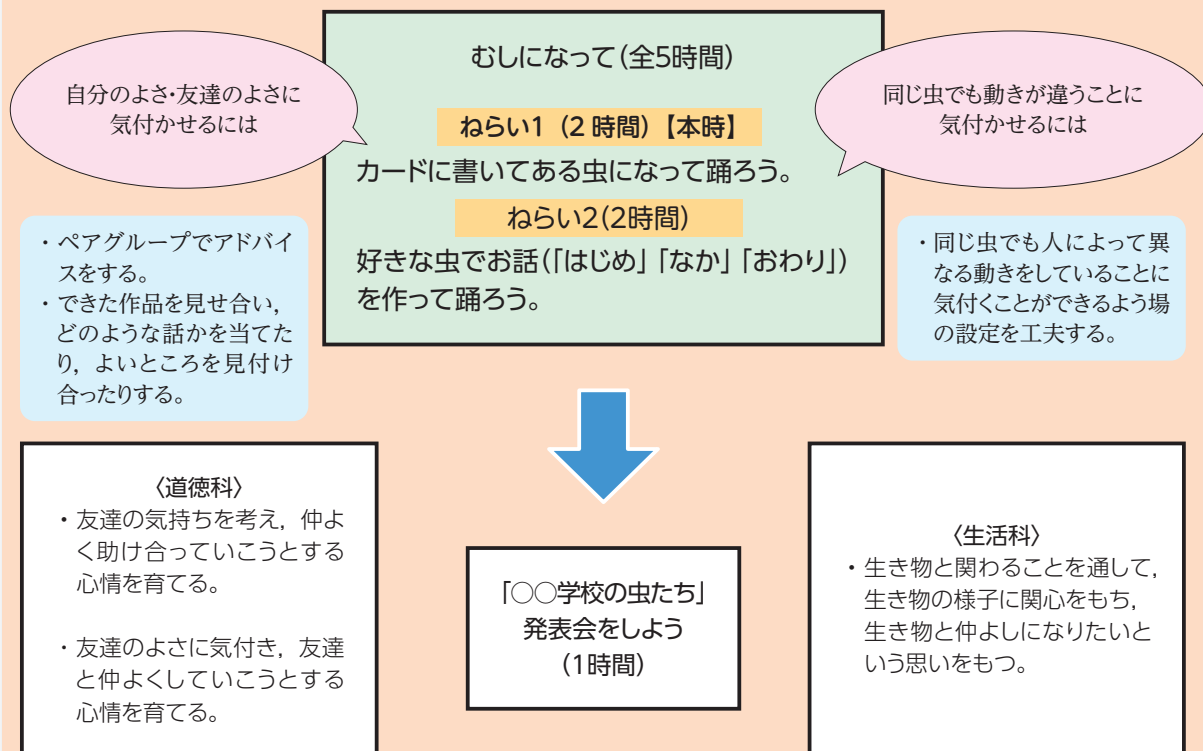
- 表現遊びの楽しさに触れ、その行い方を知ることができる。
- いろいろな虫の特徴や様子を捉え、そのものになりきって全身で踊ることができる。
- いろいろな虫の特徴を捉え、自分になりたい虫のいろいろな動きを工夫することができる。
- よい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えることができる。
- 表現遊びに進んで取組み、誰とでも仲よく踊ることができる。

本単元とキャリア教育

教科の特性を生かした単元構想の中に、キャリア教育で育てたい力を明確に位置付けておくことが大切である。

本実践は、まず虫になりきっていろいろな動きを自由に表現させる。そして、同じ虫同士で交流させ、同じ虫を選んだ人でも自分と違う動きをしていることに気付かせる。そのような活動の中で、児童は自分の気付かなかった新たな視点に気付くことができる。このような活動を単元の中で繰り返し行うことで物事を多面的・多角的に捉える力を育むことができるようになる。また、友達のよさを認めたり、アドバイスしたりし、自己肯定感・自己有用感を高めることは、キャリア教育で育てたい力につながる。

全体構想



本時のねらい

- いろいろな虫の特徴や様子を捉え、そのものになりきって全身で踊ることができる。
- よい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えることができる。

実践のポイント

友達との関わりを大切にする。

この実践では、物事を多角的に捉える力を身に付けさせるために、友達との関わりをたくさん設定している。意図的にグループをつくり、活動の中に数回の関わり合いの場を設定することで、同じ虫を選んだ人でも違う動きをしていたり、違う虫を選んでも同じ動きをしていたりすることに気付かせ、物事を多角的に捉えることができるようにする。また、その見付けた動きを動画や写真に撮り、自分の動きを確かめたり、友達の動きと比べたりすることで、学習の深まりが一層期待できる。

学級づくりが基盤。

安心して自分の考えを表現できるように、普段から友達のよさを認め合い、高め合える学級づくりを行う。

展開（2/5）

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項（○） キャリア教育の視点から見た重要なこと（◎） 評価（☆）
導入	1 学習のねらいと進め方を知る。	◎ 前時で友達のよさに気付いていた児童の振り返りを紹介し、本時も互いのよさに気付くことができるようにする。（多角的な捉え方をしていた児童を意図的に取り上げるようにする）
	いろいろなむしになって そのむしにあうごきを かんがえよう	
展開	2 カードをめくり、そのカードに書いてある虫になって踊る。	○ いろいろな虫の写真を掲示しておくことで、虫の動きのイメージを広げられるようにする。 ○ カードは裏に向けて、ばらばらに床に広げることで、自らの選んだ虫の動きを行うのではなく、いろいろな虫の模倣を楽しむことができ、また表を向けるまで虫が分からないことから、即興的な踊りを求めることができる。
	3 同じ虫の人でグループになり、踊りを見せ合う。	◎ 同じ虫を選んだ人同士で見せ合う場を設定することで、気付かなかった虫の特徴や様子に気付くことができるようにする。 ☆ 虫の特徴や様子を捉え、そのものになりきって全身で踊っている。
まとめ	4 本時の振り返りをする。	◎ 互いのよさを認め合うことで、友達と共に運動することの楽しさや関わり大切さに気付くことができるようにする。 ☆ よい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。

《学級活動（3）》 低学年から育む望ましい勤労観・職業観

題材 「きれいなきょうしつ」

ねらい

清掃活動の現状と課題に気付くとともに、清掃することの意義を知り、自分たちの教室を自分たちの力できれいにするためのよりよい方法について考え、日常の活動の中で実践することができるようにする。

本題材とキャリア教育

日々の学校生活における清掃活動をはじめとする当番活動は、キャリア教育で身に付けさせたい基礎的・汎用的能力と深い関係がある。低学年では、みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多くいる。その実態を生かして、低学年のうちから所属する集団やみんなのために一生懸命働いたり、責任を果たしたりする経験を積み重ね、その大切さや意義を理解させていくことは、望ましい勤労観・職業観を育て、社会性の育成を図ることにつながる。

まずは、事前アンケートで清掃活動の現状と課題をつかむ。次に、掃除名人である6年生や管理用務員さんにインタビューをしておき、課題解決に向けた話し合いへとつなげていく。そして、話し合いで考えた掃除名人になるための方法を基に、個人目標(意思決定)を立てさせる。

集団の役に立つために働くという社会参画への意識を醸成することや、働く意義を理解することは、キャリア教育で身に付けさせたい大切な力だからこそ、意思決定だけにとどまらず、実践の場での意欲や態度に結びつけることができるように、特別活動を要として、年間を通して意図的・計画的・継続的に取り組んでいくことが大切である。

全体構想

〈事前アンケート〉

「おそうじをふりかえってみよう」
掃除の仕方を自分で振り返る。

〈事前インタビュー〉

「おそうじめいじんにきいてみよう」
6年生や管理用務員さんに「掃除」についてインタビューをし、掃除をする意義や仕方について知る。

＜本実践＞ 学級活動(3)

「イ 社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」
○ よりよい清掃活動ができるよう課題を見出し、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。

〈道徳科〉

A(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行う。
B(9) 友達と仲よくし、助け合う。
C(12) 働くことのよさを知り、みんなのために働く。

〈当番活動〉

・日直
・給食当番
・飼育栽培活動
・掃除当番
……等

日々の清掃活動の中で、実践力を高めるための指導を継続する。
○ 帰りの会やワークシートで、自己評価・相互評価により意思決定した実践内容を振り返らせ、実践の継続を図るようにする。

本時のねらい

- なぜ清掃活動をするのかを考えることを通して、教室がきれいになると気持ちがよいこと、働くことのよさややりがいに気付くことができる。
- 日常の清掃活動に意欲的に取り組もうとしている。

実践のポイント

四つの段階の思考過程を重視し、視野を広げる。

「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」の四つの段階の思考過程を重視し、児童の成長やよさを認め合ったり、話し合い活動の場を設けたりすることで、個々の考えや可能性を広げ、強い意志をもって実践できるようにする。

実践の場での意欲や態度に結び付ける。

帰りの会などを活用して、互いのがんばりを認め合ったり、励まし合ったりするなど、継続的に指導していく。

展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項（○） キャリア教育の視点から見た重要なこと（◎） 評価（☆）
導入	つかむ 1 問題を共有する。 おそうじ名人になるために がんばることを きめよう。	○ 問題をつかみやすくするために、事前アンケートや動画や写真を活用する。 動画や写真を見ることで、自分たちのこれまでの活動を客観的に捉えやすくなる。
展開	さぐる 2 管理用務員さんのインタビューから、掃除をする意義について考える。 見つける 3 おそうじ名人になるためにできることを話し合う。	◎ 管理用務員さんに、「どうして掃除をするのか」「掃除を終えた後はどんな気持ちか」「何に気を付けて掃除をしているのか」等を話してもらうことで、掃除をする意義がやりがいについて考えられるようにする。 ◎ 小グループでの話し合いを通して、考えを広げられるようにする。 そうじの仕方やスキルだけでなく、友達と協力することでもっと上手に掃除ができることや時間を守って掃除することの大切さにも気付くことができるようにする。
まとめ	きめる 4 「おそうじ名人」になるために自分ががんばることをカードに書く。	☆ おそうじ名人になるために、自分が頑張ることを決めて、がんばりカードに書いている。（カード） ◎ がんばりカードに書いたことを発表し合うことで、実践意欲を高めるとともに、励ましの声をかけるなどして、互いの意思決定を認め合うようにする。 ◎ がんばりカードは、教室に掲示しておき、帰りの会で自己評価させたり、相互評価させたりし、実践意欲の継続につなげる。

《学校行事》異学年交流を通して、自己肯定感・自己有用感を高める

遠足・集団宿泊的行事 「なかよし遠足」

ねらい

1年生のことを考えて行動することの大切さや、みんなと力を合わせることの楽しさに気付くことができる。

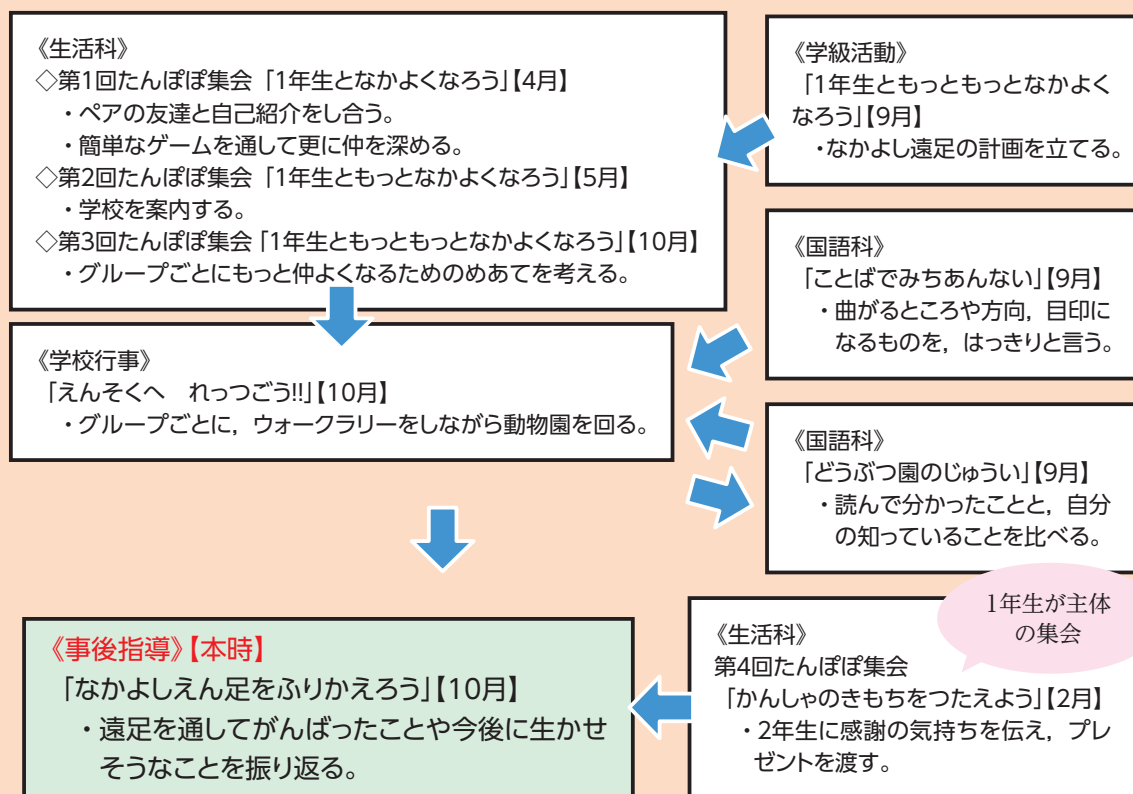
学校行事とキャリア教育

学校行事は、児童の自主的、実践的な態度を育てることができる。だからこそ、各教科等との関連(カリキュラム・マネジメント)を図りながら、効果的に進めることが大切である。

本実践例では、行事と生活科を関連付け、1年間同じペアで異学年交流に取り組んだものである。1年生は2年生をよきモデルとして捉え目標にして活動する。2年生は憧れの先輩として、よきモデルを示そうと思いやりの心をもって接しようとする。2年生のそのような行動は、一人一人の活動意欲を高め、より自立性の高い行動につながっていく。そして、そのような体験をたくさん積み重ねることで、2年生は自信を付け、自己肯定感・自己有用感を高めることができる。

この他にも異学年交流には、キャリア教育の要素がたくさん散りばめられている。例えば、異学年の仲間とコミュニケーションをとることで「人間関係形成能力」を、また、自分のよさを生かして役割を果たし、みんなの役に立つことで「自己理解能力」を、更に、見通しをもって活動したり、困難に立ち向かったりすることで「課題対応能力」を育むことができる。このような視点をもって指導することで、基礎的・汎用的能力を身に付けさせることができる。

全体構想



ねらい

- これまでの活動を振り返り、できるようになったことやこれからに生かせそうなことを考えることができる。

実践のポイント

事前指導で児童の意欲を高める。

学校行事を通して、育てたい資質・能力をしっかりと身に付けさせるためには、事前指導・事後指導がとても大切である。事前指導では、何のために活動するのかねらいを明確に伝える。そして、学校行事を通してどのような力を付ければよいのか共有する。その際には活動内容を伝え、どのような力を身に付けたいのか児童自身が考える時間もつくり、児童が意欲をもって主体的に活動できるようにする。

事後指導（振り返り）で児童の自己肯定感・自己有用感を高める。

事前に立てたみんなの目標やなりたい自分の姿にどれだけ近づけたのか、何を学んだのか、この体験を次の学習にどう生かすかなど、振り返る視点をしっかりと児童に示すようにする。最後に、第1回のたんぼぼ集会から書きためておいたワークシートを見直すことで、振り返りがより具体的なものになり、自己の成長を実感することができる。「キャリア・パスポート」にポートフォリオとしてファイリングすることで、更にその先にも学びがつながる。

事後指導における展開

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) キャリア教育の視点から見た重要なこと (◎) 評価 (☆)
導入	1 今日のめあてを確認する。 「なかよし遠足」や「たんぼぼ集会」をふりかえり、できるようになったことや次にかきたいことを考えよう。	
展開	2 写真やワークシートでこれまでの活動を振り返る。 3 できるようになったことや成長したこと、これからに生かしていきたいことをワークシートにまとめる。	◎ 1年生の憧れや感謝の思いを伝えることで、自分たちの行動が1年生のよいモデルになっていることに気付くことができるようにする。 ○ 第1回の「たんぼぼ集会」からの様子と「なかよし遠足」の様子を写真で紹介し、「優しく」「1年生に合わせて」「顔をよく観察して」など、できるようになったこともキーワードとして黒板に提示することで、振り返りに生かせるようにする。 ○ 手が止まっている児童には、同じグループで活動した友達に尋ねるよう促したり、同じグループの1年生のワークシートに書かれていることを紹介したりして、自己の成長に気付くことができるようにする。
まとめ	4 振り返りを友達とする。 下級生のことを考えて行動することの大切さやみんなと力を合わせることの楽しさにも気付けるようにする。	◎ 互いの成長を認め合ったり、自分が気付いてない成長を教えてもらったりすることで、自己肯定感・自己有用感を高めることができるようにする。 ☆ 遠足やたんぼぼ集会を通してできるようになったことやこれからに生かせそうなことをワークシートに書いている。(ワークシート)